

光南台アルプス コース図



<お願い>

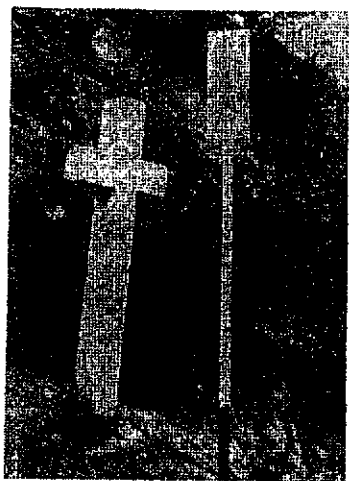
コースには民有地も含まれており、所有者のご理解・ご協力を得てコース設定をさせて頂いておりますので、緊急事態等の場合を除き、コースを外れて林地内に入らないでください。
また、コースは万全ではありませんので、安全第一で踏査してください。万一事故が起されば、当然「自己責任」ですよ！

宮浦山腹
の十字架

恩怨をこえた、美しい人間愛の実話でこの章を結ぼう。岡山空襲後のある日、宮浦の山腹で村人が墜落したB29一機を発見した。米軍人の肉體、機体などが付近に散乱して、目をおおうばかりだったという。地元消防団員が跡片づけをし、足首一個(スエック靴をはいたもの、はだしのもの)を一つの石炭箱に収め、土中に埋めて卒塔婆を立てて慰に葬った。

ところが、終戦後に進駐軍が来るというので、アメリカの宗旨を考えて塔婆を木の十字架に変えた。米兵がやってきて、手厚く葬ってくれたことを大変感謝し、石炭箱を掘り出して持ち帰った。しかし墜落機の所属部隊が、手がかりなく米軍でも判らなかったので、小学生や消防団員が徹底的に調べたところ、標識が一つ見つかり、乗組員の所属も判明したという。

この墜落機については元牛窓監視哨長だった正本安彦氏が、『岡山戦災の記録』(2)に書いている。あらましは次のとおりである。



宮浦地区の山腹に建てられた
B29乗員の慰霊十字架

岡山空襲の六月二十九日午前三時二十七分に、牛窓高度三〇〇〇呎の上空を被弾のため、右二つのエンジンから炎を引きながら西進するB29一機を発見、本部へ通報したという。そのB29の後ろ姿は、左右にグラグラゆれながら漸次機体を左に傾け、ヨタヨタしながら岡山市南よりに進路を変え、福島付近上空(推定)までたどりつき、抱いて来た焼夷弾全部を一度にドッと吐き出すように空中にまき散らしながら降って行く。その光のすだれで明るくなった空の向う側へ、急にグラリと左へ大きく傾くと同時に、機は左旋回しながら真逆さまに児島方向の山へつきささるように激突し、一瞬バ

ーンと爆発、炎上した。

監視哨から、「三時三十分児島方面へB29一機撃墜炎上」と報告したといっている。また、「友軍機の攻撃によるものか、徳島方面の高射砲のねらい撃ちによる被弾か、私どもには知る由も無いけれど、この撃墜機をしんがりにして岡山市はB29四十機の、約一時間にわたる焼夷弾攻撃により業火灰燼に没した」。

昭和三十一年ごろだったが、岡山市史編集委員会が宮浦方面を調査した時には、木製の十字架だったが、地元の安田仁三郎氏の篤志で、いまはコンクリート製に変わっているという(『岡山市史』戦災復興編)。

昭和20年11月22日 【合同新聞】

十字架床し

墜死したB29乗員を葬る

甲浦村の国際佳話

一部不心得な日本軍將兵による残虐行爲、捕虜虐待などの事実が連合軍によつて指摘されてあるとき、これはまた反対に厳しい戦争のさ中にありながら日本人が持つ伝統の血の温さを米兵の上に示した世界人類愛の美しい話がある――

岡山県児島郡甲浦村宮ノ浦海岸から約十五町を山奥に分け入った山林中に清楚な一基の十字架が建ち、村民がそなへたらしい野菊が淋しく秋風にそよいでゐる、その表面には「米空軍將兵之墓」裏面に昭和二十年六月二十九日の年号がともに墨痕鮮やかに書かれてある、これは去る六月二十九日の岡山空襲に際しエンジンの故障から同山林中に墜落死したB29搭乗員の遺骸を付近村民がこの地に懇ろに葬り、今月まで二十九日の命日には欠かさず供養を行つて来たものである、進駐米軍側では本社幹部でこのほど現地を訪れ、村民が示した厚い情けをいたく感謝してゐる、なほ同軍では近くこれが埋没式を盛大に行ふべく目下これが準備を進めてゐる

昭和20年11月22日 【合同新聞】

十字架架床し

墜死したB 29乗員を葬る

甲浦村の国際佳話

一部不心得な日本軍将兵による残虐行為、捕虜虐待などの事実が連合軍によって指摘されてあるとき、これはまた反対に厳しい戦争のさ中にありなが日本人が持つ伝統の血の温さを米兵の上に示した世界人類愛の美しい話がある――

岡山県児島郡甲浦村宮ノ浦海岸から約十五町を山奥に分け入った山林中に清楚な一基の十字架が建ち村民がそなへたらしい野菊が淋しく秋風にそよいでゐる、その表面には「米空軍将兵之墓」裏面に昭和二十年六月二十九日の年号がともに墨痕鮮やかに書かれてある、これは去る六月二十九日の岡山空襲に際しエンジンの故障から同山林中に墜落死したB 29搭乗員の遺骸を付近村民がこの地に懇ろに葬り、今月まで二十九日の命日には欠かさず供養を行つて来たものである、進駐米軍側では本社の斡旋でこのほど現地を訪れ、村民が示した厚い情けをいたく感謝してゐる、なほ同軍では近くこれが埋没式を盛大に行ふべく目下これが準備を進めてゐる

昭和20年12月19日 【合同新聞】

進駐軍へ引き渡す

墜死したB 29搭乗員の遺骨

去る六月二十九日岡山市爆撃の際岡山県児島郡甲浦村宮浦山中に墜落したB 29とともに墜死した搭乗員の遺骨、遺品は、当時戦ひのさ中でそのままになってゐたのを村当局をはじめ村民の手で懇ろな法要も営まれ埋葬され、十字架に咲く国際朗話として伝えられ、その後岡山進駐軍では村民の好意に感激し実地の視察も行はれ、近く慰霊祭も行はれるはずになつてゐた予定が変更され、去る十四日埋葬された遺骨は進駐軍の手で発掘引取られた

岡山市史戦災復興編 (昭和35年11月3日発行)

一機宮浦山中に墜落

岡山市を空襲したB 29約七十

機のうち高射砲に撃ちぬかれて火を発し墜落した一機がある。この一機は一旦岡山の上空から東方海上に脱出したが、傷ついた機体から火をふき出したためか東から児島湾の上空に入り、晩の空に物凄いい火だるまとなって旧甲浦村宮浦の山腹に激突、そのまま炎上した。

これを見た付近のものは気味わるがってしばらく寄りつかず二、三日経つて地元のものが見場に行つてみると、機体は焼けた残骸をさらし、搭乗者は全員機と運命を共にして遺体は四散、にわかに員数を知ること出来なほどであったが漸くにして八人乗っていたことが判明したという。

現場は貝殻山を北に下った谷にある金上池の堤防西端に近い山腹で、地元の有志が異国の空で散った米兵を弔うて建てた白い十字架が登山者の目をひき、地にしみこんだ油がいまも山肌をうす暗くそめている。



B-29墜落地 岡山を空襲したB29のうち1機が旧甲浦村宮浦の山腹に墜落乗員8名が惨死した。戦後地元の人達によって供養の十字架が立てられた。



戦跡

世紀を超えて

児島湾に面した岡山市宮浦の
金上池土手下の草むらに、コン

B29墜落現場

⑤

クリートの十字架がひっそりと立つ。高さ約1メートル。45年6月29日、岡山空襲の時に墜落したB29の搭乗員11人を供養する。墜落現場の宮浦の住民が建てたという。

当時、近くの阿津地区に住んでいた浜田幸和さん(65)は墜落寸前のB29を見た。「明け方に北西方向から、真っ赤な塊が落ちてきて、ドンと大きな音がした」。友人と墜落現場へ行った。一面焼け野原で、遺体や機体の破片が散乱していた。強烈な戦争の記憶は、今も鮮明に残る。

遺体は木の箱に収められ墜落現場に埋葬。その後、反対側の山の斜面に埋め直された。木の十字架が建ててあったという。米軍は、手厚く葬ってくれたことに感謝し、遺骨を持ち帰ったという。数年後、元の場所に建てられたのが、この十字架だ。

「何もなかったら、B29が墜落したという事実は忘れ去られてしまう」。阿津で農業を営む西原寛さん(65)は十字架の周りに生えた草を刈りながら静かにつぶやいた。

(おわり)
この連載は小林裕子が
担当しました

記憶伝える 供養の十字架

B29の搭乗員たちを供養した十字架。草むらに静かに立つ。岡山市宮浦で